

未来の長浜市を創造するまちづくり委員会

第4回 産業分科会 議事録

日時	平成21年 8月20日(木) 18:00 ~ 20:00		
場所	長浜市役所 本館3階第1会議室		
議題	環境に配慮した農林水産業の振興について		
出席者	分科会委員*敬称略 村上宣雄、伊藤兵一郎、吉田豊、松井京美、嶋崎善弘 森田義人、松本長治、稲田司		
市	農林水産課：伊藤俊次、秋野忍、辻直人、下司一文、堀江一敏 分科会事務局（商工振興課） 大塚義之、小谷勝也		
6町	なし		
傍聴者	あり（人）	報道機関	あり（ ）

【協議結果】

- ① テーマ “環境に配慮した農林水産業の振興について” のまとめ
 - ・農地については、地域性を考慮しつつ、放棄水田を他用途に転用するなど、マネジメント機能が必要。
 - ・林業については、現存の森林組合への依存度が高いため、組合の統合等の問題を見据えたうえで支援策を講じる必要がある。
- ② 次回日程とテーマ
 - ・次回日程 10月8日(木) 18:00～
 - ・次回開催場所 「長浜市役所本館3階第1会議室」
 - ・次回テーマ 「生活文化に根ざした産業の振興、就労機会の拡大について」
- ③ その他
 - ・長浜市臨時議会（8月7日開催）において議会構成が変更されたことに伴い、委員の変更（前任者*敬称略：吉川富雄 後任者*敬称略：押谷憲雄）があった。後任の分科会長は、次回分科会までに長浜市の委員の中から選出されることとなった。

【主な意見】（要点列記）

ー農業についてー

市	農林水産業振興の現状と今後の取り組みについて説明。
A委員	現在農業を営んでいるが、農地が不足しているとは思えず、農地を守らないといけないという考えは理解できない。生産性の悪い農地は、工場地や住宅地に転用できないか。
市	必要と思われるところは転用されているが、農地転用の規制は厳しくなる方向。ゾーニングとして不要な農地をすぐに転用することはできない。集落単位で農地を守っていただきながら、放棄地については麦・大豆等の生産に対する

補助金を活用しつつ、保全に取り組んでいく必要があると考える。

B委員 アメリカのように農地を拡大にし、農機具等を共有化すれば経費も削減できるのでは。

A委員 生産性の悪い小さな農地は、宅地として整備すれば人も集まりまちも活性化する。新市の区域の中で農地のゾーニングを決めるべき。

C委員 農業は地域地域で大切に育まれてきたもの。山間部で生産された米の方が米価が高いこともある。農業をやりながら工業をやっている地域もある。農業をやる権利はどこ地域にもあり、極論で話すべきではない。

D委員 生きがいを感じている人もいる。次の担い手がない地域には別の施策を打つなどの方法を。

E委員 木之本では、農地が足りなくて、個人で整地して水田にする人もいる。品質の高いものを作り、高く売っている。大規模にすると付加価値が下がる恐れがある。

F委員 国の農地・水・環境保全事業が開始され3年。この事業の考え方は、地域循環であり、この地域でいうと末端は水産業に影響を与える。事業が終了すれば、農地も環境も大きく変化すると思う。それぞれに携わる人の意識を改革しなければ環境に配慮した農業は成り立たない。

A委員 現在の農業は国の施策により何とか成り立っている。これには自治体にも一部負担が伴うが、受益者側からの一部負担等も考慮したうえで、今後できるだけ国の施策に協力していただきたい。

B委員 国の補助があるうちは成り立つが、継続はできない。適正な生産ができる大きくなるよう土地の合理化を図り、守っていくことだけではなく、転用も視野に入れてはどうか。

D委員 深刻な土地はたくさんある。現状を見て対応いただきたい。放棄地のマネジメントなどをしていただけるとありがたい。

ー林業についてー

E委員 林業も農業と同じ赤字経営という問題を抱えている。さらに最近では、鹿や熊などによる樹木の皮はぎが大きな問題となっている。現在の林業を支えているのは森林組合。新市域には2つの組合が存在するが、合併後の支援策はどうなるのか。

市 現在県内の森林組合が一つになるという動きがある。これを見据えたうえで今後の支援策を考えたい。

F委員 農業との大きな違いは、農業は1年サイクルであるが、林業は即収入につながらないこと。木が育ったかと思えば、伐採・運搬費で赤字になってしまう。そのため組合の存在が大きい。行政には組合をバックアップするような支援策

を期待する。

- E委員 山が荒れ、人が入りこめない山も増えているが、伊香郡森林組合では間伐しながら林道の整備をするなど解決策を講じている。それよりも問題なのが皮はぎ。根本的に何とかしなくては。

ー地域ブランド化ー

- D委員 どの地域にも“夢”、“もの”はあるが地域ブランド化するノウハウがない。
- A委員 ブランド化するにはボリューム（生産量）がなければ。全国で販売できるだけの量が必要。例えば、南浜のぶどうを周辺地域でも生産をするなど。
- E委員 木之本のサラダパンはメディアでの露出で大流行した。ブランド化は量だけではない。
- B委員 大量生産だけでなく、既存のものを加工することもブランド化につながるのでは。
- D委員 形が悪いだけで捨てられてしまっている野菜は、給食などに利用してもらうなど、行政指導をお願いしたい。
- A委員 農業と観光の要素を合わせて観光農園をやるのもおもしろい。
- D委員 現在体験型の観光が流行しており、そこからは人の交流も生まれている。

ーその他ー

- C委員 6町の水産業のやり方は、新市においてそのまま引き継いでもらいたい。
- 市 漁業組合への運営費補助は行っていない。稚魚を放流された場合に助成を行ったり、漁場の清掃を委託している。
- D委員 それぞれの集落の元気が、新長浜市の元気につながる。課題は多いが、その分やりがいもあるので、がんばっていただきたい。